

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500660		
法人名	社会福祉法人 フェニックス		
事業所名	グループホーム 私の部屋(さくら)		
所在地	岐阜県各務原市須衛町3丁目151番地		
自己評価作成日	令和 5年 9月30日	評価結果市町村受理日	令和 6年 2月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&Jlgvsvocd=2170500660-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7
訪問調査日	令和 5年 10月 24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気を大切に、ゆったりとした環境の中で利用者様が出来るだけ自立した生活が送れるよう支援しています。小規模な空間の中では、利用者様同士の馴染みの関係を作りやすく、この馴染みの関係を作り上げる事によって生活上の戸惑いや不安の軽減に繋がります。ご家族や本人様から聞き取りを行い、過去の趣味を知りホームでもできる事は継続して行えるよう支援しています。生活リハビリを通して機能維持に努め、お一人お一人の状態に応じた役割を見つけ生活の中に取り入れる工夫をしています。今年度も感染症の流行により、力を入れている外出支援やボランティアの受け入れ、大人数での行事の開催等は実施出来ていませんが、小規模施設だからこそできる利用者様お一人お一人が主役になれる行事を実施しています。又、今の状況の中でできる事を常に模索し「季節を感じられる」事を大切にした行事を毎月計画し取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、医療機関を起点とする母体法人グループが医療・福祉の複合的展開の契機となった老健施設に隣接した北欧スタイルの建物であり、採光に優れ、明るく開放的な造りになっている。理念・価値観・想いを総称して法人のウェイとし、それを踏まえたホームの目標を掲げ、利用者オリエンテッドの観点から、職員チームで利用者の思いに寄り添うケアに努めている。また、ホームでは、利用者それぞれの生活スタイルを尊重しつつ、能力や個性を活かした役割参加を通じて、QOLを高め、活き活きとした主体的な生活が送れるよう、取り組んでいる。日常生活の中での行事、食事、外出等の様々な企画で生活に彩りや楽しみをもってもらえるよう工夫している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念と私の部屋の本年度の目標を一緒に掲げ、サービス目標に基づいた個々の取組みや進捗状況について毎月カンファレンスで話し合っている。実践に繋げる話し合いを意識して行っている。	法人理念は、研修等の際に唱和している。また、理念が記載されたカードを名札に入れて機会あることに見る等して、意識するようにしている。ホームには理念達成のための目標「情報の把握、観察、関係部署等と連携し事故・転倒0へ向け挑戦」があり、毎月のカンファレンスで振り返り、支援につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域運営推進会議には自治会の方に参加頂いている。感染症流行前は、地域のお祭りやボランティアさんとの交流を通して地域との繋がりを感じる事が出来ていた。	ホームは法人施設には隣接しているが、住宅地から離れており、日ごろは近隣の方々との交流が少ないものの、外出時等には挨拶をしている。コロナの5類移行後は、施設間の交流やボランティアの受け入れの再開を検討しているところである。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域運営推進会議は年3回開催し、ホームの現状報告を行っている。様々な立場からの助言をいただき、日々のケアに活かしている。	コロナ感染予防のため、活動内容や事故報告等を書面にて委員全員に郵送し、意見を返信してもらっている。面会の再開についてや身体拘束をしないケア等についての意見をもらい、職員会議で検討し、サービスの向上に活かしている。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域運営推進会議の場ではホームの現状や取組みを伝え、日頃から協力関係を築けるよう努力している。また市が開催する研修等には参加するようにしている。	ホームの運営状況を報告するとともに、運営上の課題やコロナ感染症対策等について助言を受け、運営に活かしている。運営推進会議にも毎回、出席してもらう等、密な協力関係を築いている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてはご家族の十分ご理解を得た上で行き、毎月状態の報告も行っている。カンファレンスでは、職員間で毎月解除に向けた検討を続けている。モニターや人感センサーの設置など個々に合わせた対応策を考え各々の思いを尊重しながら、行動の把握や危機察知できるようにしている。	身体拘束に関する研修を実施している。また、モニターや人感センサーの活用等、現場でも工夫して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。やむをえない場合には、家族の同意を得ている。ケアについて、本人にとって最善の支援をカンファレンスで検討している。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉の虐待を含め、法人の勉強会やカンファレンスで学ぶ場を設けている。「自分ならどんなケアをして欲しいか」を第一に考え、それぞれが振り返り見直せる場を設け、日々のケアを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	カンファレンスで学ぶと共に、研修への参加の機会もある。また必要と思われる人には支援できる体制にある。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は担当者または管理者が立ち会い、ご家族やご本人の希望を伺いながら、十分な説明を行いご理解を頂いている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会では、ご要望を伺い、伺った意見はカンファレンスや運営会議で検討し反映させている。(家族会はここ3年間行っていない)	コロナ禍で面会についても制限的にならざるを得ない状況にあり、家族会も休止となり、家族からの意見を伺う機会が減少している中であるが、家族の来訪時やプランの更新時に電話等で意見を聞くようにしている。また、会議において、家族代表等から出された意見については、運営・サービスの向上等に反映している。	面会の制限や家族会の休止で家族の来訪する機会が減少しているため、代替策のひとつとして文書によるアンケート実施についても検討されたい。
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回法人の運営会議が行われ、理事長や各事業所の管理者等が出席し、意見や相談・提案し合える場となっている。経営陣との距離が近く、相談できる体制が出来ている。	管理者は日常的なケアの現場に身を置き、職員との関係づくりを行っている。気軽に話ができるよう、コミュニケーションに努め、話を聞くようにしている。人事考課や契約更新時等にも面談の機会があり、意見や提案等を聞き、出された意見は、運営に活かしている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	人事考課の制度があり、半年ごとに個々の取り組みについて自己評価し、それを基に部署長と話し合い、各自の状況や思いが把握ができるよう努めている。	管理職は職員の勤務状況や家庭事情を把握しながら、それぞれの状況に応じた働きやすい職場づくりを行っている。有給休暇、就労時間や休みの調整、介護休暇の相談、悩み相談等、職員の就労環境への配慮がある。予防接種や健診等福利厚生も整っている。	
12	(10)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課シートや業務習得チェックリストを使用し、各々の力量について把握している。また法人内外の研修会へ参加し学ぶ機会を設けている。	法人本部でスキルや職位、テーマ別等、職員一人ひとりの状況に応じた研修計画があり、人事考課シートや業務習得チェックリスト等を活用した目標管理の仕組みができています。また、期首の目標設定、期中の職員面談によるフィードバック、期末の評価の一連のPDCAサイクルが機能している。さらに、職員の資格取得の援助や勤務調整の配慮もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の定例会や研修会などへ参加し、他の事業所との交流を図ったり、各務原市内の施設部会へ参加し、交流を図れるよう努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一日の時間の中で、共有できる時間は得意な事や役割を通し支援し、またリビングで一緒に楽しむ時間はみなさんと良好な関係を築けるよう、共に支え合える関係作りに努めている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族の意見を取り入れたプラン作成と、カンファレンスで話し合いの場を設け、よりご本人の思いに添うように、情報の共有やプランへの反映に努めている。困難な場合は今までの生活歴への理解やご家族への聞き取りをしている。	一人ひとりの思いや意向は、日々の生活の中で聞き取るとともに、家族の意向や今までの生活歴からの情報も踏まえつつ、表情やしぐさの背景も考えて、把握に努めている。また、カンファレンスで話し合い、寄り添った支援ができるように検討している。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランは3か月毎に見直しを行っている。毎月のカンファレンスで意見を出し合うと共に、ご本人、ご家族の意向を伺い、現状に合ったプランを作成している。	利用者、家族の思い、意向や定期的なモニタリングを通じて得た気づき等についてカンファレンスで話し合い、3ヶ月毎の見直しを行っている。かかりつけ医や訪問看護、理学療法士からの意見を踏まえて介護計画を作成している。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテに毎日の様子やケアの実践の様子を入力し、日々の変化を次回プランに活かせるよう情報共有しカンファレンスで検討している。検討内容は次回のプランに反映させ、常にご本人の状態に沿ったプランを作成している。	記録はペーパーとデータベースがあり、個別ファイルを用意し、利用者の日々の暮らしの様子や支援内容、身体状況、エピソード等を記録している。記入の仕方や保存・保管等についてはルールをつくり、新人職員等は、記録法について研修等を通じて学んでいる。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対し、常に法人内の専門スタッフに相談できる関係にあり、助言や支援等の協力があがり、迅速にニーズに対応できるよう取り組んでいる。	ニーズオリエンテッドの観点から、法人が有する多様な資源「各種専門職、施設、設備」等を活用し、ホームの枠を超えて、それぞれの利用者ニーズに応える等、柔軟なサービス提供に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に来てくださるボランティアさんの行事参加や美容室の先生との交流、幼稚園児や託児所の子供達との交流、また消防訓練による安全の確認など地域の方々と関わりながら暮らして頂けるよう支援している。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	フェニックス総合クリニックとの連携により、週1回のDr.回診と訪問看護にて適切な医療が受けられるよう支援している。また近隣の協力医とも連携し、随時往診や受診が出来るよう支援している。	かかりつけ医の選択は利用者・家族の自由であり、法人の協力医療機関に変更する場合や、従来のかかりつけ医に継続して受診をしている場合がある。他科受診には家族同行をお願いしているが、受診の際に利用者の状況について担当医に情報提供をしている。協力医療機関とは訪問診療や訪問看護を行う等、密な医療連携ができており、利用者や家族の安心につながっている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、入居中の様子を医療機関へサマリーなどで情報提供し、ご本人が安心して治療が受けられるよう支援している。また法人内の地域連携室が窓口となり、入院中の情報交換もできる体制ができています。	入院時は、服薬状況、ADL、食事形態、認知症の周辺症状等についてサマリーを作成し、情報提供している。入院中や退院時には法人内の地域連携室が窓口になり、状態を確認するとともに、安心して退院できるように支援している。また、退院後の生活もスムーズに対応できる体制となっている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期のあり方について説明し、重度化した場合にもその都度、利用者や家族の希望を確認しながら協力医療機関と連携し、看取りケアを実施している。ご本人やご家族の希望を十分に聞き取り、最善のケアが出来るようにしている。	入居時にホームの方針を説明し、重度化した際は、医師から説明するとともに、利用者・家族の意向を踏まえて、看護師等の多職種間で話し合い、利用者・家族に寄り添ったケアに取り組んでいる。また、家族の部屋での宿泊希望にも対応できるようにしている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応マニュアルはカンファレンスで見直し、職員に周知徹底し、また研修会への参加や法人内の勉強会を開き、迅速に対応できるよう努めている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	BCPの作成、年2回の避難訓練を実施し、非常階段やベランダへの避難等も訓練を行っている。災害時には消防署や近隣の法人施設にも同時に連絡できる通報システムを整備し、連携している。また協力を呼び掛ける場として運営推進会議を活用し施設内部の構造を把握できるようにしている。	定期的に昼夜想定での避難訓練を実施している。また、災害時には消防署や近隣の法人施設にも同時に連絡できる通報システムを整備するとともに、通報訓練も行っている。BCP計画を策定するとともに、非難の手順書も掲示し、災害時に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	快適に穏やかに過ごして頂けるよう、その方の思いや生活スタイルを尊重し、居室での過ごし方にも気を配り、一人ひとりに合ったケアが統一して行えるようカンファレンスで検討している。	利用者一人ひとりの個性を尊重する観点から、それぞれの生活スタイルを大切に支援に取り組んでいる。また、日常的なケアの中での気づきを記録し、カンファレンス等で共有しつつ、その人らしい生活が継続できるよう努めている。トイレや入浴の際や居室での生活等で、プライバシー保護に配慮した支援に努めている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時の衣類の準備を一緒に行ったり、ティータイムの飲み物の希望を伺う等、日常的に自己決定出来るよう支援している。意思決定が困難な方には選択肢を限定し質問する等、個々に合わせた対応をしている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の思いや体調に考慮し、それぞれのペースで日々過ごして頂いている。希望により、テレビ視聴や散歩、家事手伝い等の支援を行う他、入浴もご本人のペースで支援している。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際のテーブル拭きなどのお手伝いをして頂いており、状況に応じて盛り付け、配膳・下膳も一緒に行っている。多彩な食器、利用者の状況に応じた食事形態での提供等、食事が楽しみなものになるような支援に努めている。	利用者、家族から好き嫌いを確認し、好まれない物は代替して提供するとともに、利用者一人ひとりの状況に応じて、ゆったり食事がとれるよう配慮している。また、利用者が個性や能力に応じて、準備や片付け等に関われるよう支援している。行事に合わせた食事や季節に応じたおやつを提供したり、梅ジュース、焼き芋や干し柿を作る等して食事が楽しみになるよう、支援している。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によるメニュー管理により、栄養バランスに配慮している。また安全に考慮した上で摂取しやすい食形態で提供し、摂取量が不足がちな方にはお好きな物や栄養補助食品等で対応している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施。口腔内湿潤ジェルや歯ブラシの形状などは個々に合った物を使用し、支援している。必要時は医師やS T、歯科衛生士へ口腔内の状況や口腔ケアについて相談できる体制がある。	法人内で口腔ケアについての研修会を開催して職員の意識を高めるとともに、利用者一人ひとりの状況に応じて対応できるよう、支援している。また、口腔外科医と連携し、口腔ケアについての助言を受ける体制ができており、毎食後に口腔ケアを行い、口腔内の清潔を保持できるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表の活用により個々の排泄パターンを把握する事で、適切な時間のトイレ誘導に心掛けている。おむつは本人の意識や状態、体調等の変化に応じ適宜見直しをしている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回の入浴を基本とし、ご利用者の状況や要望に合わせて柔軟な対応をしている。菖蒲湯やゆず湯など季節を感じられる取り組みを行っている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、安心して眠れるような環境の整備や見守りを行っている。できる限り日中活動的に過ごして頂き、夜間の睡眠を促している。日中でも希望のある時は、臥床や休息を取れるようその都度支援している。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	どなたも薬剤情報をカルテで保管し、スタッフは服薬内容等を常に知る事ができるようになっている。変更、臨時薬等があれば体調チェックも欠かさず行い、医師や看護師にその都度報告し、指示を受けている。	服薬時に職員間でダブルチェックを行い、誤薬防止に努めている。確実に服薬を終えるまで確認し、服薬後は空き袋を箱に入れて破棄する等、服薬ミスが起こらないように努めている。薬の変更があった際には内容を把握し、体調のチェックをしている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活歴を理解し、好きな事や得意な事を活かし、役割や楽しみを持ち充実した日々を過ごして頂けるよう、支援している。	利用者一人ひとりの生活歴や個性に着目し、本人のできることで生活の中の役割を持ってもらうようにしている。食事に関する作業、洗濯に関する作業、部屋の整理等、本人の得意分野を活かした家事作業を主にお願している。	今後とも、家事作業の役割に加えて、本人の潜在的な強みを生かした役割や楽しみごとの支援の拡充について、検討に向けた取り組みに期待したい。
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩やベランダでの外気浴の他、希望に沿ってドライブや喫茶店まで外出し、普段とは違った雰囲気を楽しんで頂いている。またご本人の希望を伺い、ご家族の協力を得ながら外出や外食、時には旅行が出来るよう支援していきたい。	コロナ5類移行に伴い、外出の規制が徐々に緩和され、外出機会を増やしている。例えば、受診で外出する際にドライブも兼ねて行ったり、天気の良い時には散歩に出かけている。また、散歩ができない場合でも広いベランダを活用して、外の空気に触れることができるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人のご希望に応じて売店や喫茶での支払いができるよう支援している。個人で管理できる方は少額のお金を自己管理され、必要な物を購入し、自分で支払をされている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や友人からの電話に出て頂き、会話を楽しんで頂いたり、希望時は電話がかけられるよう支援している。遠方のご家族とは手紙でのやり取りを行い、利用者様自らが近況報告ができるよう支援している。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やテーブルに季節の花を利用者様と共に生け、季節折々の飾りつけをリビングや居室の入口等に飾り、雰囲気を楽しんで頂いている。畑やベランダでは季節の花や野菜を植え、皆さんとともに収穫してる。また室温と環境整備は日々確認している。	共有スペースは採光に優れ、明るく居心地の良い空間になっており、また、畑やベランダのプランターを眺めて季節を感じることもできる。リビングには、利用者と共に作成した四季折々の展示物や行事等の写真等が飾られており、家庭的で落ち着いた雰囲気がある。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室はご本人の馴染みの物や安心出来るものを置き、くつろげる空間にしている。共有スペースである畳やソファを心地良く利用出来るよう設置し、皆さんが思い思いの場所で過ごして頂けるよう工夫している。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの使い慣れた物や家具・思い出の品等をご本人の希望を伺い、ご家族の協力を得ながら設置している。安全面に配慮した上で、ご本人が安心して居心地良く過ごせるよう工夫している。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自分で出来ることが安全にできるよう、見守りや支援を行っている。表札の設置や物品の使い方、タイムスケジュール等、その方の身体面や認知機能面を考慮しながらできるだけ自立した生活が送れるよう工夫をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500660		
法人名	社会福祉法人 フェニックス		
事業所名	グループホーム 私の部屋(こぶし)		
所在地	岐阜県各務原市須衛町3丁目151番地		
自己評価作成日	令和 5年 9月30 日	評価結果市町村受理日	令和 6年 2月 2 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JkyvosvoCd=2170500660-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7
訪問調査日	令和 5年 10月 24 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気を大切に、ゆったりとした環境の中で利用者様が出来るだけ自立した生活が送れるよう支援しています。小規模な空間の中では、利用者様同士の馴染みの関係を作りやすく、この馴染みの関係を作り上げる事によって生活上の戸惑いや不安の軽減に繋がります。ご家族や本人様から聞き取りを行い、過去の趣味を知りホームでもできる事は継続して行えるよう支援しています。生活リハビリを通して機能維持に努め、お一人お一人の状態に応じた役割を見つけ生活の中に取り入れる工夫をしています。今年度も感染症の流行により、力を入れている外出支援やボランティアの受け入れ、大人数での行事の開催等は実施出来ていませんが、小規模施設だからこそできる利用者様お一人お一人が主役になれる行事を実施しています。又、今の状況の中でできる事を常に模索し「季節を感じられる」事を大切にした行事を毎月計画し取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念と私の部屋の本年度の目標を一緒に掲げ、サービス目標に基づいた個々の取組みや進捗状況について毎月カンファレンスで話し合っている。実践に繋げる話し合いを意識して行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域運営推進会議には自治会の方に参加頂いている。感染症流行前は、地域のお祭りやボランティアさんとの交流を通して地域との繋がりを感じる事が出来ていた。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域運営推進会議は年3回開催し、ホームの現状報告を行っている。様々な立場からの助言をいただき、日々のケアに活かしている。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域運営推進会議の場ではホームの現状や取組みを伝え、日頃から協力関係を築けるよう努力している。また市が開催する研修等には参加するようにしている。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてはご家族の十分なご理解を得た上で行い、毎月状態の報告も行っている。カンファレンスでは、職員間で毎月解除に向けた検討を続けている。モニターや人感センサーの設置など個々に合わせた対応策を考え各々の思いを尊重しながら、行動の把握や危機察知できるようにしている。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉の虐待を含め、法人の勉強会やカンファレンスで学ぶ場を設けている。「自分ならどんなケアをして欲しいか」を第一に考え、それぞれが振り返り見直せる場を設け、日々のケアを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	カンファレンスで学ぶと共に、研修への参加の機会もある。また必要と思われる人には支援できる体制にある。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は担当者または管理者が立ち会い、ご家族やご本人の希望を伺いながら、十分な説明を行いご理解を頂いている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びにに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会では、ご要望を伺い、伺った意見はカンファレンスや運営会議で検討し反映させている。(家族会はここ2年間行えていない)		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回法人の運営会議が行われ、理事長や各事業所の管理者等が出席し、意見や相談・提案し合える場となっている。経営陣との距離が近く、相談できる体制が出来ている。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	人事考課の制度があり、半年ごとに個々の取り組みについて自己評価し、それを基に部署長と話し合い、各自の状況や思いが把握ができるよう努めている。		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課シートや業務習得チェックリストを使用し、各々の力量について把握している。また法人内外の研修会へ参加し学ぶ機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の定例会や研修会などへ参加し、他の事業所との交流を図ったり、各務原市内の施設部会へ参加し、交流を図れるよう努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一日の時間の中で、共有できる時間は得意な事や役割を通し支援し、またリビングで一緒に楽しむ時間はみなさんと良好な関係を築けるよう、共に支え合える関係作りに努めている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族の意見を取り入れたプラン作成と、カンファレンスで話し合いの場を設け、よりご本人の思いに添うように、情報の共有やプランへの反映に努めている。困難な場合は今までの生活歴への理解やご家族への聞き取りをしている。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランは3か月毎に見直しを行っている。毎月のカンファレンスで意見を出し合うと共に、ご本人、ご家族の意向を伺い、現状に合ったプランを作成している。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテに毎日の様子やケアの実践の様子を入力し、日々の変化を次回プランに活かせるよう情報共有しカンファレンスで検討している。検討内容は次回のプランに反映させ、常にご本人の状態に沿ったプランを作成している。		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対し、常に法人内の専門スタッフに相談できる関係にあり、助言や支援等の協力があり、迅速にニーズに対応できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に来てくださるボランティアさんの行事参加や美容室の先生との交流、幼稚園児や託児所の子供達との交流、また消防訓練による安全の確認など地域の方々と関わりながら暮らして頂けるよう支援している。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	フェニックス総合クリニックとの連携により、週1回のDr.回診と訪問看護にて適切な医療が受けられるよう支援している。また近隣の協力医とも連携し、随時往診や受診が出来るよう支援している。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、入居中の様子を医療機関へサマリーなどで情報提供し、ご本人が安心して治療が受けられるよう支援している。また法人内の地域連携室が窓口となり、入院中の情報交換もできる体制ができています。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期のあり方について説明し、重度化した場合にもその都度、利用者や家族の希望を確認しながら協力医療機関と連携し、看取りケアを実施している。ご本人やご家族の希望を十分に聞き取り、最善のケアが出来るようにしている。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応マニュアルはカンファレンスで見直し、職員に周知徹底し、また研修会への参加や法人内の勉強会を開き、迅速に対応できるよう努めている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	BCPの作成、年2回の避難訓練を実施し、非常階段やベランダへの避難等も訓練を行っている。災害時には消防署や近隣の法人施設にも同時に連絡できる通報システムを整備し、連携している。また協力を呼び掛ける場として運営推進会議を活用し施設内部の構造を把握できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	快適に穏やかに過ごして頂けるよう、その方の思いや生活スタイルを尊重し、居室での過ごし方にも気を配り、一人ひとりに合ったケアが統一して行えるようカンファレンスで検討している。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時の衣類の準備を一緒に行ったり、ティータイムの飲み物の希望を伺う等、日常的に自己決定出来るよう支援している。意思決定が困難な方には選択肢を限定し質問する等、個々に合わせた対応をしている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の思いや体調に考慮し、それぞれのペースで日々過ごして頂いている。希望により、テレビ視聴や散歩、家事手伝い等の支援を行う他、入浴もご本人のペースで支援している。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際のテーブル拭きなどのお手伝いをして頂いており、状況に応じて盛り付け、配膳・下膳も一緒に行っている。多彩な食器、利用者の状況に応じた食事形態での提供等、食事が楽しみなものになるような支援に努めている。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によるメニュー管理により、栄養バランスに配慮している。また安全に考慮した上で摂取しやすい食形態で提供し、摂取量が不足がちな方にはお好きな物や栄養補助食品等で対応している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施。口腔内湿潤ジェルや歯ブラシの形状などは個々に合った物を使用し、支援している。必要時は医師やS T、歯科衛生士へ口腔内の状況や口腔ケアについて相談できる体制がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表の活用により個々の排泄パターンを把握する事で、適切な時間のトイレ誘導に心掛けている。おむつは本人の意識や状態、体調等の変化に応じ適宜見直しをしている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	トイレでの腹部マッサージや日々の体操などにより、自然排便を促す工夫をしている。また多めに水分補給を行うなど便秘予防に取り組んでいる。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、安心して眠れるような環境の整備や見守りを行っている。できる限り日中活動的に過ごして頂き、夜間の睡眠を促している。日中でも希望のある時は、臥床や休息を取れるようその都度支援している。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	どなたも薬剤情報をカルテで保管し、スタッフは服薬内容等を常に知る事ができるようになっている。変更、臨時薬等があれば体調チェックも欠かさず行い、医師や看護師にその都度報告し、指示を受けている。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活歴を理解し、好きな事や得意な事を活かし、役割や楽しみを持ち充実した日々を過ごして頂けるよう、支援している。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩やベランダでの外気浴の他、希望に沿ってドライブや喫茶店まで外出し、普段とは違った雰囲気を楽しんで頂いている。またご本人の希望を伺い、ご家族の協力を得ながら外出や外食、時には旅行が出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人のご希望に応じて売店や喫茶での支払いができるよう支援している。個人で管理できる方は少額のお金を自己管理され、必要な物を購入し、自分で支払をされている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や友人からの電話に出て頂き、会話を楽しんで頂いたり、希望時は電話がかけられるよう支援している。遠方のご家族とは手紙でのやり取りを行い、利用者様自らが近況報告ができるよう支援している。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やテーブルに季節の花を利用者様と共に生け、季節折々の飾りつけをリビングや居室の入口等に飾り、雰囲気を楽しんで頂いている。畑やベランダでは季節の花や野菜を植え、皆さんとともに収穫してる。また室温と環境整備は日々確認している。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室はご本人の馴染みの物や安心出来るものを置き、くつろげる空間にしている。共有スペースである畳やソファを心地良く利用出来るよう設置し、皆さんが思い思いの場所で過ごして頂けるよう工夫している。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの使い慣れた物や家具・思い出の品等をご本人の希望を伺い、ご家族の協力を得ながら設置している。安全面に配慮した上で、ご本人が安心して居心地良く過ごせるよう工夫している。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自分で出来ることが安全にできるよう、見守りや支援を行っている。表札の設置や物品の使い方、タイムスケジュール等、その方の身体面や認知機能面を考慮しながらできるだけ自立した生活が送れるよう工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500660		
法人名	社会福祉法人 フェニックス		
事業所名	グループホーム 私の部屋(もみじ)		
所在地	岐阜県各務原市須衛町3丁目151番地		
自己評価作成日	令和 5年 9月30 日	評価結果市町村受理日	令和 6年 2月 2 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JkyvosvoCd=2170500660-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7
訪問調査日	令和 5年 10月 24 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気を大切に、ゆったりとした環境の中で利用者様が出来るだけ自立した生活が送れるよう支援しています。小規模な空間の中では、利用者様同士の馴染みの関係を作りやすく、この馴染みの関係を作り上げる事によって生活上の戸惑いや不安の軽減に繋がります。ご家族や本人様から聞き取りを行い、過去の趣味を知りホームでもできる事は継続して行えるよう支援しています。生活リハビリを通して機能維持に努め、お一人お一人の状態に応じた役割を見つけ生活の中に取り入れる工夫をしています。今年度も感染症の流行により、力を入れている外出支援やボランティアの受け入れ、大人数での行事の開催等は実施出来ていませんが、小規模施設だからこそできる利用者様お一人お一人が主役になれる行事を実施しています。又、今の状況の中でできる事を常に模索し「季節を感じられる」事を大切にした行事を毎月計画し取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念と私の部屋の本年度の目標を一緒に掲げ、サービス目標に基づいた個々の取組みや進捗状況について毎月カンファレンスで話し合っている。実践に繋げる話し合いを意識して行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域運営推進会議には自治会の方に参加頂いている。感染症流行前は、地域のお祭りやボランティアさんとの交流を通して地域との繋がりを感じる事が出来ていた。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域運営推進会議は年3回開催し、ホームの現状報告を行っている。様々な立場からの助言をいただき、日々のケアに活かしている。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域運営推進会議の場ではホームの現状や取組みを伝え、日頃から協力関係を築けるよう努力している。また市が開催する研修等には参加するようにしている。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてはご家族の十分なお理解を得た上で行い、毎月状態の報告も行っている。カンファレンスでは、職員間で毎月解除に向けた検討を続けている。モニターや人感センサーの設置など個々に合わせた対応策を考え各々の思いを尊重しながら、行動の把握や危機察知できるようにしている。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉の虐待を含め、法人の勉強会やカンファレンスで学ぶ場を設けている。「自分ならどんなケアをして欲しいか」を第一に考え、それぞれが振り返り見直せる場を設け、日々のケアを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	カンファレンスで学ぶと共に、研修への参加の機会もある。また必要と思われる人には支援できる体制にある。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は担当者または管理者が立ち会い、ご家族やご本人の希望を伺いながら、十分な説明を行いご理解を頂いている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会では、ご要望を伺い、伺った意見はカンファレンスや運営会議で検討し反映させている。(家族会はここ2年間行っていない)		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回法人の運営会議が行われ、理事長や各事業所の管理者等が出席し、意見や相談・提案し合える場となっている。経営陣との距離が近く、相談できる体制が出来ている。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	人事考課の制度があり、半年ごとに個々の取り組みについて自己評価し、それを基に部署長と話し合い、各自の状況や思いが把握ができるよう努めている。		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課シートや業務習得チェックリストを使用し、各々の力量について把握している。また法人内外の研修会へ参加し学ぶ機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の定例会や研修会などへ参加し、他の事業所との交流を図ったり、各務原市内の施設部会へ参加し、交流を図れるよう努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一日の時間の中で、共有できる時間は得意な事や役割を通し支援し、またリビングで一緒に楽しむ時間はみなさんと良好な関係を築けるよう、共に支え合える関係作りに努めている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族の意見を取り入れたプラン作成と、カンファレンスで話し合いの場を設け、よりご本人の思いに添うように、情報の共有やプランへの反映に努めている。困難な場合は今までの生活歴への理解やご家族への聞き取りをしている。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランは3か月毎に見直しを行っている。毎月のカンファレンスで意見を出し合うと共に、ご本人、ご家族の意向を伺い、現状に合ったプランを作成している。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテに毎日の様子やケアの実践の様子を入力し、日々の変化を次回プランに活かせるよう情報共有しカンファレンスで検討している。検討内容は次回のプランに反映させ、常にご本人の状態に沿ったプランを作成している。		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対し、常に法人内の専門スタッフに相談できる関係にあり、助言や支援等の協力があり、迅速にニーズに対応できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に来てくださるボランティアさんの行事参加や美容室の先生との交流、幼稚園児や託児所の子供達との交流、また消防訓練による安全の確認など地域の方々と関わりながら暮らして頂けるよう支援している。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	フェニックス総合クリニックとの連携により、週1回のDr.回診と訪問看護にて適切な医療が受けられるよう支援している。また近隣の協力医とも連携し、随時往診や受診が出来るよう支援している。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、入居中の様子を医療機関へサマリーなどで情報提供し、ご本人が安心して治療が受けられるよう支援している。また法人内の地域連携室が窓口となり、入院中の情報交換もできる体制ができている。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期のあり方について説明し、重度化した場合にもその都度、利用者や家族の希望を確認しながら協力医療機関と連携し、看取りケアを実施している。ご本人やご家族の希望を十分に聞き取り、最善のケアが出来るようにしている。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応マニュアルはカンファレンスで見直し、職員に周知徹底し、また研修会への参加や法人内の勉強会を開き、迅速に対応できるよう努めている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	BCPの作成、年2回の避難訓練を実施し、非常階段やベランダへの避難等も訓練を行っている。災害時には消防署や近隣の法人施設にも同時に連絡できる通報システムを整備し、連携している。また協力を呼び掛ける場として運営推進会議を活用し施設内部の構造を把握できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	快適に穏やかに過ごして頂けるよう、その方の思いや生活スタイルを尊重し、居室での過ごし方にも気を配り、一人ひとりに合ったケアが統一して行えるようカンファレンスで検討している。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時の衣類の準備を一緒に行ったり、ティータイムの飲み物の希望を伺う等、日常的に自己決定出来るよう支援している。意思決定が困難な方には選択肢を限定し質問する等、個々に合わせた対応をしている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の思いや体調に考慮し、それぞれのペースで日々過ごして頂いている。希望により、テレビ視聴や散歩、家事手伝い等の支援を行う他、入浴もご本人のペースで支援している。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際のテーブル拭きなどのお手伝いをして頂いており、状況に応じて盛り付け、配膳・下膳も一緒に行っている。多彩な食器、利用者の状況に応じた食事形態での提供等、食事が楽しみなものになるような支援に努めている。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によるメニュー管理により、栄養バランスに配慮している。また安全に考慮した上で摂取しやすい食形態で提供し、摂取量が不足がちな方にはお好きな物や栄養補助食品等で対応している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施。口腔内湿潤ジェルや歯ブラシの形状などは個々に合った物を使用し、支援している。必要時は医師やS T、歯科衛生士へ口腔内の状況や口腔ケアについて相談できる体制がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表の活用により個々の排泄パターンを把握する事で、適切な時間のトイレ誘導に心掛けている。おむつは本人の意識や状態、体調等の変化に応じ適宜見直しをしている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	トイレでの腹部マッサージや日々の体操などにより、自然排便を促す工夫をしている。また多めに水分補給を行うなど便秘予防に取り組んでいる。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、安心して眠れるような環境の整備や見守りを行っている。できる限り日中活動的に過ごして頂き、夜間の睡眠を促している。日中でも希望のある時は、臥床や休息を取れるようその都度支援している。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	どなたも薬剤情報をカルテで保管し、スタッフは服薬内容等を常に知る事ができるようになっている。変更、臨時薬等があれば体調チェックも欠かさず行い、医師や看護師にその都度報告し、指示を受けている。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活歴を理解し、好きな事や得意な事を活かし、役割や楽しみを持ち充実した日々を過ごして頂けるよう、支援している。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩やベランダでの外気浴の他、希望に沿ってドライブや喫茶店まで外出し、普段とは違った雰囲気を楽しんで頂いている。またご本人の希望を伺い、ご家族の協力を得ながら外出や外食、時には旅行が出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人のご希望に応じて売店や喫茶での支払いができるよう支援している。個人で管理できる方は少額のお金を自己管理され、必要な物を購入し、自分で支払をされている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や友人からの電話に出て頂き、会話を楽しんで頂いたり、希望時は電話がかけられるよう支援している。遠方のご家族とは手紙でのやり取りを行い、利用者様自らが近況報告ができるよう支援している。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やテーブルに季節の花を利用者様と共に生け、季節折々の飾りつけをリビングや居室の入口等に飾り、雰囲気を楽しんで頂いている。畑やベランダでは季節の花や野菜を植え、皆さんとともに収穫してる。また室温と環境整備は日々確認している。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室はご本人の馴染みの物や安心出来るものを置き、くつろげる空間にしている。共有スペースである畳やソファを心地良く利用出来るよう設置し、皆さんが思い思いの場所で過ごして頂けるよう工夫している。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの使い慣れた物や家具・思い出の品等をご本人の希望を伺い、ご家族の協力を得ながら設置している。安全面に配慮した上で、ご本人が安心して居心地良く過ごせるよう工夫している。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自分で出来ることが安全にできるよう、見守りや支援を行っている。表札の設置や物品の使い方、タイムスケジュール等、その方の身体面や認知機能面を考慮しながらできるだけ自立した生活が送れるよう工夫している。		